

美馬市木屋平のザトウムシ

クモ・貝類班 (徳島博物同好会)

富島 啓次*

要旨: 美馬市木屋平のザトウムシの分布を調査した。今回の調査だけでなく過去に発見されたものも含めて報告したい。なお、ザトウムシ目の貴重種であるマメザトウムシ科の3種がここ木屋平で発見されている。この3種の採集の経過についても述べたい。

キーワード: ザトウムシの分布, マメザトウムシ

1. はじめに

ザトウムシは蛛形綱のザトウムシ目に属するものである。真正クモに似ているが、異なる点も多い。まず、糸腺をもたないので糸を出せない。腹部にはっきりとした体節をもつ。頭胸部と腹部が幅広く接していて、クモのように細くくびれていない。一般に非常に細長い歩脚をもち、第二歩脚が特に長くその先端は複雑に動き触手の役割をしている。ザトウムシはメクラグモともよばれるが、眼は頭胸部の中央に眼丘が見られる。マメザトウムシの眼丘は特に大きい。

乾燥に弱く、湿度の安定した林の中のような環境を好み、林床の落ち葉の中などにすむ土壌性の種も多い。なお、土壌性のものは小型種が多く、歩脚も短くなる傾向がある。

2. 木屋平で確認されたザトウムシ

調査で見られたザトウムシを以下のように報告する。なお、今回の調査は中尾山を中心に谷口、川上、太合と東部の天行山などである。この調査で確認できなかったものは過去の採集データ(1962, 1975, 1976, 2000)も加えて報告したい。

種名については鶴崎(1993)の日本野生生物目録によった。

OPILIONES ザトウムシ目

Phalangodidae アカザトウムシ科

1. *Pseudobiannites japonicus* Hirst ニホンアカザトウムシ
07. 8. 26. 寺内
体長4~5mmの赤褐色の種で、落ち葉の中にすむ。触手は捕獲型でよく発達している。

Triaenonychidae ニセタテヅメザトウムシ科

2. *Nippononychus japonicus* (Miyosi)
ニホンニセタテヅメザトウムシ
07. 8. 26. 中尾山
赤褐色で、体長2mmくらいの小型種である。落ち葉の中にすむ。

Nipponopsalididae ニホンアゴザトウムシ科

3. *Nipponopsalis abei* (Sato&Suzuki)
サスマタアゴザトウムシ
07. 8. 26. 中尾山
落ち葉、朽ち木、石の下などにすむ。体長は2.5mm程度であるが、鋏角は体長の倍近くあり、全体に黒い。触手は歩脚のような鞭状である。広く分布するが、個体数は少ない。

Sabaconidae ブラシザトウムシ科

4. *Sabacon pygmaeum* Miyosi
コブラシザトウムシ
2000. 8. 16. 一の森

* 徳島文理高等学校

落ち葉の中にすむ。体長2mmのひ弱い感じの虫である。触手は棒状でブラシのような毛をもつ。

5. *Sabacon makinoi sugimotoi* Suzuki&Turusaki

スギモトブラシザトウムシ

1976. 7. 11. 一の森

全種によく似た種で、東北地方を中心に分布する北方系の種である。四国では剣山系のみに見られる。

Caddidae マメザトウムシ科

6. *Caddo agilis* Bannks

マメザトウムシ

1976. 7. 11. 丸笹山

体長は3mm足らずの小型種である。眼が大きく眼丘は頭胸部の大半を占める。体色は暗褐色で一部銀白色を帯びる。小型で動きが速いため見つけにくい虫である。

7. *Caddo pepperella* Shear

ヒメマメザトウムシ

1962. 8. 12. 追分

前種に似るがさらに小型で1.5mmくらいである。県内ではこの追分の標本以外には見つかっていない。

8. *Acropsopilio boopis* (Crosby)

アワマメザトウムシ

1975. 8. 15. 不動の窟付近

この標本が日本初のものでこれ以外の標本はない。北アメリカには同種が分布する。上2種よりさらに小型で1mmくらいである。全体に黒くすばしこい動きである。

Phalangiidae マザトウムシ科

9. *Oligolophus asperses* (Karsch)

トゲザトウムシ

07. 8. 26. 太合 07. 10. 7. 天行山

比較的高地にすむ。頭胸部前縁に三本の棘がある。夏は薄い褐色であるが、秋には背甲が黒化し別種になった感じになる。笹の中、樹木の葉の上と広範囲に生息する。

10. *Nelima nigricoxa* Sato&Suzuki

ヒコナミザトウムシ

07. 8. 26. 太合

マザトウムシ科に属するものは脚の長いものが多いが、この種は特に長い。県内の山地で普通に見られる。夏までは腹面が白いが、秋になると黒化し基節から黒化する。

11. *Nelima satoi* Suzuki

サトウザトウムシ

07. 8. 26. 谷口

前種と近縁の種であり、すこし小ぶりである。湿度の高い、滝のしぶきのかかるようなところを好む。

12. *Leiobunum japonense japonicum* (Suzuki)

オオヒラタザトウムシ

1975. 8. 15. 行場

体長は雌で7mmを超える。幅も広く、まさに大きく平たいオオヒラタザトウムシである。しかし脚は短い。地上をはっている。

13. *Leiobunum japonicum japonicum* Muller

モエギザトウムシ

07. 8. 25. 三ツ木 07. 8. 26. 谷口

山地に見られる普通種である。体長は3mmと小さいが脚は長く第二歩脚は8mmを超える。

14. *Leiobunum montanum* Suzuki

ヤマスベザトウムシ

2000. 8. 16. 一の森

明るい褐色で眼丘だけが黒い、目立つ種であるが、最近個体数が少なくなった。

15. *Gagrellula ferruginea* (Loman)

アカサビザトウムシ

07. 10. 7. 天行山

明るい褐色である。腹部背甲に黒い帯の斑紋と鋭い棘をもつ。

16. *Gagrellula* sp.

クロザトウムシ

07. 8. 26. 谷口 07. 10. 7. 天行山 07. 10. 13. 谷口

前種によく似るが、体長、脚長ともやや小ぶりである。前種より低い所にすみ分けている。

17. *Systemocentrus japonicus* Hirst

ゴホンヤリザトウムシ

07. 8. 26. 中尾山 07. 10. 13. 川原谷 二戸谷川

八月は亜成体であるが、十月になると成熟する。腹部背面に5本の棘が並んでいるのでこの名があるが、徳島県を含む四国産のものは6本槍である。

3. マメザトウムシ科について

1962年の夏、追分の針葉樹林の中で朽ちた倒木の上の苔をはがしたところ、小さな虫がせわしなく動くのが見えた。一般に土壌性のザトウムシは動きが緩慢である。一見真正グモの動きではあるが形はザトウムシ、急いで吸虫管を出した。朽ち木をはがしてみると、別の個体が動いている。数頭採ることができた。体長は1.5mmくらいであるが、数匹が一斉に動いてくれたので発見できたのだと思う。これがヒメザトウムシである。それ以後剣山系だけでなく、県内では見つけることができていない。日本での分布は、本州、四国、九州である。何と同種が北米(カナダ, USA)にも隔離的に分布している

(Suzuki1976, 鈴木他3名1977)。

1975年, 不動の窟付近の針葉樹林で同様に倒木の苔を除くと動きのはやいザトウムシがいた。すこし小ぶりで1mmくらい全身真っ黒であった。久しぶりに採集できたと、顕微鏡で覗いてみた。巨大な眼丘もよく似ているが、触手の棘の形がかなり異なる。広島大学の鈴木先生に郵送したところ, 同じマメザトウムシ科ではあるが別属の虫であることがわかった(Suzuki1976)。日本初記録である。今の所ここ以外では発見されていない。それで, アワマメザトウムシの和名で呼ばれている。だが新種発見ではなかった。これも北米(カナダ, USA)に隔離的に分布しているのだ。

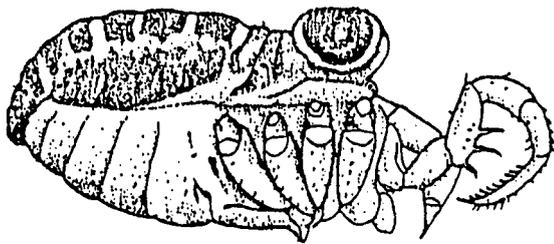


図 マメザトウムシ (Suzuki1958より)

前2種より大ぶりのマメザトウムシが, 本州四国(九州では未発見)北海道に分布している。3mmく

らいでマメザトウムシ科では最大のこの虫が1976年まで未発見であった。その夏, 丸笹山の笹の葉の上に止まっているのを見つけた。そっと捕虫網を近づけると網の中にジャンプしてきた。これもすばやい動きである。その後, 佐那河内, 東祖谷でも見つけたが個体数は少ない。マメザトウムシの“マメ”は小さいと意味だけでなく, こまめに動くの“まめ”という意味もあるらしい。小型で動きが早いので発見しにくい種である。この種も北米に隔離分布している。

4. おわりに

17種を記録した。今回も坂東治男氏から貴重な標本をいただきこれも含めて報告した。

木屋平で発見されたマメザトウムシについて, その経過を記した。

文 献

- Suzuki, S. 1958. Occurrence in Japan of *Caddo agilis* Banks (Opiliones). *Annot. zool. Japon.*, 36: 225-228.
- Suzuki, S. 1976. The Harvestmen of Caddidae in Japan (Opiliones, Palpatores, Caddoidea). *J. Sci. Hiroshima Univ.* (B-1), 26: 261-273.
- 鈴木正将・富島啓次・矢野静子・鶴崎展巨, 1977. 遺跡のザトウムシにおける隔離分布. *Acta arachnol.* 27: 121-134.
- 鶴崎展巨, 1993. 日本産野生生物目録-本邦産野生動植物の種の現状-無脊椎動物編 I. 環境庁編: 81-83.